

新潟県立長岡高等学校長

鈴木勇二

0 はじめに

生徒の皆さん、令和5年が始まりました。今年も、充実した高校生活を送っていきましょう。

1月1日に能登沖で大規模な地震があり、新潟県を含む北陸地域に甚大な被害がありました。被災された皆様には、心からお見舞い申し上げます。また、多くの方が亡くなられ、今も安否確認ができていない方々が多くいらっしゃいます。亡くなられた方々のご冥福をお祈りすると共に、一刻も早い安否確認を願うばかりです。20年前の中越地震の時には、全国から多くの支援が寄せられました。今度は私たちが支援をする立場です。私たちに何ができるかを考え、行動に移しましょう。

今日は2つお話をします。

1 突然の手紙

はじめにお話しするのは、昨年末に届いた手紙についてです。

昨年12月25日、終業式の日でしたが、一通の封書が届きました。差出人を見ると、神戸市の正井潔（まさい きよし）とありました。全く覚えのない名前でしたが、開けてみると、正井様は、途上国に救急・救助・消防の技術を支援する表記の団体を設立し、現在は名誉理事長として主にカンボジア国を支援しています。2008年末に、国民を救う災害派遣部隊（RRC711）の創設と育成を依頼され、現在では首都プノンペン市はもとより周辺の州の救急、救助、火災事案に出動し、またビル崩壊や大規模な火災においては全国的に出動しており、広くカンボジア国民から信頼を得ているとのことでした。その関係で、今年11月9日から12日まで長岡市で開催されました「Rescue Day 2023（船山株式会社主催）」に参加されていました。

以下、校長宛にいただいた手紙を読みますので、聞いてください。

（始業式当日は手紙の全文を読み上げました。その方が、正井様のお気持ちが生徒に伝わると考えたからです。以下、その概略です）

(手紙の概略)

今年11月9日から12日まで長岡市で開催されました「Rescue Day 2023 (船山株式会社主催)」に参加しました。参加者は、引率の私の他、RRC711部隊の責任者であるカンボジア王国軍少将 SOY NARITH (ソイ ナリス) 氏以下13名のRRC711部隊の隊員です。

最終日の11日の夕方、私たち14名は夕食のためJR長岡駅ビル内のあるレストランに行こうとしましたが、うまくレストランが見つからないため近くに居た男女2名の若者に声をかけ、レストランの場所を聞いたところ、気軽にレストランまで案内して下さいました。

道中、取り留めの無い話の中で彼らが高校生であると分かった頃にレストランに着き、彼らはレストランのスタッフに席の有無などを聞いて下さいましたが、満席で食材も閉店までになくなるため待っても無駄との事でした。その時、彼らは回転寿司店に電話をかけて聞いて下さいましたが、折しも土曜日の夕食時でもあり全て満席でした。その後、駅ビル内の食材コーナーでトンカツ弁当を買ってホテルの部屋で食べることにしましたが、それでも調達することができなかったことから、宿泊先のホテルに弁当屋さんを聞き、私を含めた3人がタクシーで買い物に行き、夕食を得ることが出来ました。

この夜、SOY NARITH 氏から2本の動画と1枚の写真が私の携帯電話に送られてきました。その動画は、私たち3人が弁当を買いに行っている間に、高校生2人が心配して私たちの宿泊先を訪れお土産らしき紙袋をSOY NARITH 氏にお渡ししている動画と、SOY NARITH 氏から高校生にカンボジアのお土産をお渡ししている動画と、高校生が隊員と共に移っている写真でした。私は、彼ら高校生2人がレストランへの道案内やトンカツ弁当屋さんへの道案内だけでも本当に嬉しかったのですが、更に動画のような続編があったことに驚きとうれしさを覚えました。同様に、SOY NARITH 氏達カンボジア人も、高校生である彼らが行った親身になった行いに、カンボジア人の想像を超えた親切心を感じたようで、日本人への敬愛の念を深めたようです。

その後、お二人から連名のメールを頂き、彼らが新潟県立長岡高等学校の2年生であることが分かりました。メールを頂いたとき、私はカンボジアに滞在しRRC771舞台に訓練指導をしていましたが、頂いたメールの概略をSOY NARITH 氏にご説明したところ、ぜひ高校生2人の善行を高校の校長先生にお伝えして欲しいと依頼されると共に、同封の手紙をお預かりして頂きました。

また、今の手紙にもあったように、カンボジア国王軍少将のSOY NARITH様の手紙も同封されていました。英語で書かれていたので、日本語に訳したものを読みます。

(こちら、始業式では全文を読み上げました。内容は、正井様のものと同じく、2人の生徒への感謝の気持ちを綴ったものでした。また、2人の行動が、どれだけ我々の、とりわけカンボジア国民の心を揺さぶったかをお伝え頂きたいという内容でした。)

美しい、気持ちが伝わる文章ですね。読んでいて、すがすがしい気持ちになります。もちろんそれは、ここに書かれている本校生徒の行為が素晴らしいものであり、それに対する正井様、そしてSOY NARITH少将をはじめとしたカンボジアの方々の素直な感謝の気持ちが伝わってくるからでしょう。

困っている人を見たときに、助けたい、手を差し伸べたい、それは誰もが思うことです。ですが、誰もができるとは限りません。勇気を出して一歩踏み出してみる。行動に移す。長高生にはそれができると私は確信しています。そういったことの繰り返しで、社会を明るくし、豊かにしていくのではないのでしょうか。

2 小さな親切

長高生のそのような行為を、今年になって私は実際に見ることができました。

1月4日のお昼前、アオーレ長岡で行われた長岡市の賀詞交換会に歩いて向かう途中、長岡駅手前の最後の信号待ちをしていると、目の前に一台の車がゆっくり停車しました。そして、その車から出て来たお年寄りの男性に「大光銀行はどこですか。この近くにあるようなのですが」と場所を聞かれました。私は長岡高校に勤めて3年目になりますが、大光銀行の場所は思いつきませんでした。「申し訳ありませんが、私も長岡市の者ではないのでわかりません」とお答えしたのですが、ふと横を見ると、長高生らしき男子生徒が立っていたので「大光銀行の場所はわかりますか？」と図々しくも聞いてしまいました。私たちのやりとりを聞いていたのか、その生徒はスマートフォンを出して調べ始めました。地図アプリか何かで調べ始めたのでしょうか。私は、すぐに行動してくれたその生徒に、「すごいな」と感心しました。幸い、近くのビルで私たちの様子を見ていた女性が、わざわざビルから出て来て、大光銀行の場所を教えてくれ、お年寄りの男性は、私たちに感謝の言葉を述べて、そちらに向かって行きました。小さな親切ですが、こういったことが繰り返し行われることで、社会は豊かになっていくのだと感じました。

私は、そのとき、迂闊にも男子生徒のクラスと名前を聞くことすらしませんでした。そしてもう一つ、大切なことをせずにいました。その男子生徒に対して、しっかりと感謝の気持ちを伝えることです。この場を借りてお伝えさせてください。

「あのときは、助けてくれてありがとう。」

3 おわりに

3年生は共通テストが間近に迫ってきました。緊張していることと思います。終業式でも話したとおり、最後まで頑張りましょう。美奈さんは十分に準備をしてきました。「これだけやってきたんだ」という気持ちが皆さんを後押ししてくれます。そして、「自分ができる」という強気で、前向きな気持ちで試験に臨みましょう。良い結果が出ることを期

待しています。

1年生、2年生は、まだ、「受験」というものが実感できていないかもしれません。ですが、2年後、1年後には必ずそのときがやってきます。今からできることを、一つ一つ積み重ねていきましょう。

以上で訓話を終わります。